

神事佛事におろかにして、氏寺をなやますべき人なれば我ともなはずこの給て、あがらせ給にける。

〔保元物語二〕左府御最後附大相國御歎事

十三日年〇保元元ニ、木津へ入給フ、頼長藤原御心地モ次第ニ弱リテ、今ハ限リニ見へ給へバ、柞森ノ邊ヨリ圖書允俊成ヲ以テ、興福寺ノ禪定院ニ御坐ス、入道殿父〇頼長忠實ニ、此由申タリケレバ、即迎へ參ラセ度ハ思召ケレ共、餘ノ御心ウサニヤ有ケン、何トカ入道ヲモ見ント可思、我モ見へン共不レ思ヤソレ俊成ヨ、思テモ見ヨ、氏者長者タル程ノ者ノ、兵杖ノ前ニ懸ル事ヤ有、左様ニ不運ノ者ニ對面セン事ヨシナシ、音ニモ不聞、増テ目ニモ見ザラン方ニ行ト云ベシト、〇下略